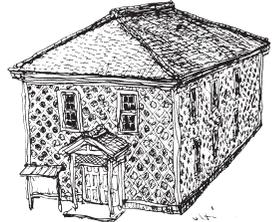


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

こくりょうじろう
國領二郎

SFCの四半世紀と未来創造塾

1990年に創設された湘南藤沢キャンパス（SFC）も24年目を迎え、3学部（総合政策、環境情報、看護医療）、2研究科（政策・メディア、健康マネジメント）、そして中・高等部を擁し、学生、教職員合わせるとおよそ7000名もが通う大キャンパスに成長しました。2019年には横浜初等部の卒業生も進学してきます。

教育改革が国全体のテーマになる中で、SFCに対する社会の関心が再び高まっていることを感じています。確かに9月入学など、話題となっていることの多くはSFCが創設以来実施していることです。その後も切れ目なく改善を続け、グローバル化に向けて成績優秀な学生が「4月に入学して3・5年で9月卒業して海外の大学院へ進学する制度」なども導入済みであるほか、英語のみで学部を卒業できるGIGAプログラムなどを導入してきました。AO入試で多彩な異才を迎え、多様性の中で学生の創造性、独創性を生かす教育もすつかり定着しました。いま、SFCは、さらなる飛躍に向けて滞在型教育研究施設「未来創造塾」の建設準備を急ピッチで進めています。単なる

学寮ではなく、教室と居室がユニットとなった建物を複数用意し、慶應義塾のどの学部でも泊まり込み集中型の教育や、海外留学生を交えたサマースクールなどを行える環境を用意する予定です。海外トップ教授を招いての短期集中講座なども行い「質の高い国際化」を推進したいと思っています。世界ではインターネットを活用した遠隔教育などが盛んになってきており、SFCでも力を入れているのですが、そんな時代だからこそ、逆に時間と空間を濃密に共有する少人数で行う、滞在型教育の意義が高まると思っています。

未来創造塾は、藤沢市の地域としてのテーマのひとつである、「相鉄いずみ野線のSFC前までの延伸に向けたまちづくり」への慶應義塾としての貢献とも位置づけられています。SFCのアクセス改善は慶應義塾としても大きな課題で、横浜初等部の進学までに、ぜひ実現させたいと思っています。

この未来創造塾の実現のために、現在30億円の寄付募集を行っています。多くの皆様のご参加をいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。